

平成26年度事業報告

26.7.1～27.6.30

◎概況

記念館は、昭和44年の財団設立から昨、平成26年9月、45周年を迎えることができました。多くのロータリー関係者に感謝し、秋季例祭は創立記念式典とし、祝賀行事を主体に催行いたしました。

一方、米山が初代理事長を務めた財団法人三井報恩会は、昨年創立80周年を迎えた為、当館の45周年と相合わせ、米山の社会奉仕の拠点であった三井報恩会が成した多くの事業の一部、農村振興事業に焦点をあてた講演を企画、実施いたしました。

また、5年後の50周年を見据え、45周年事業、祝賀行事とも小規模にまとめた記念式典としました。

◎創立45周年式典（秋季例祭・参加者120余名）

- ・高額寄付者及び功労者 個人14名、法人・団体17社に対し米山功労表彰を行い、記念品を贈り感謝の意を表しました。
- ・講演 演題「三井報恩会と彦部地区」
講師 長澤聖浩氏
(三井報恩会と特定振興村彦部村を考える会会長)
- ・動画放映 時の総理大臣 齋藤 實と交流を持った東京RC・米山梅吉翁の貴重な動画を放映（東京RCのご協力）
- ・米山梅吉肖像画（原画）恵贈除幕式
三井住友信託銀行名誉顧問 藤井 健氏により、記念館45周年を祝し三井信託銀行の社宝の肖像画（原画）が恵贈された。

◎館報の発行

例年のとおり、春秋年2回館報を発行しました。例祭の様や寄稿等を掲載し、毎回、概ね3000部を全国発送します。発送にあたり例祭案内、賛助会員募集他、数種の案内文書も含め、封入作業は、2620地区米山委員、地区運営委員、館を例会場としている長泉RC会員有志等、20余人の皆様のご尽力により発送しております。

◎入館者の推移

当年度年間入館者は3000余人、来館ロータリークラブは106RCと、

前年度より830人、30RC多く、増加傾向が見られます。

近年、移動例会や米山奨学生を伴う地区委員会等、来館者、来館クラブの微増傾向が見られる。9月～11月の週末などは複数の団体が来館され、それぞれ卓話依頼も増してきております。中でも米山月間にあたる10月には1日で5団体が集中することもあった。うれしいことではありますが、少人数での対応にはなかなか厳しい現実でもあります。

◎米山文庫の状況

平成22年4月開館した米山文庫・子ども図書館は、順調に推移してきております。今年度の来館者は5800余人、うち子供は2900余人を数え、前年度に比し1600余人、800余人とそれぞれ増加しております。

長泉町立図書館とタイアップし、地域の子ども図書館としての役割が増しております。また、運営には長泉RC図書館運営委員会の尽力が大きく、今後もその役割が期待されております。

◎収支の状況

収入面での特記は、岡本ガバナー提唱のワンコイン（500円）募金によって全国のロータリアンから370万余円の募金をいただき、貴重な事業財源を得ることができました。

支出面では、創立50周年事業の一部前倒しなど、3点が特記される。

- ①老朽化した空調設備の更改。(11,664千円)
- ②記念出版事業「米山梅吉物語」 銀の鈴社との出版契約金。(1,250千円)
日常経費としては、
- ③火災保険（5年契約）・賠償保障特約保険料。(874千円 5年契約の更新)

◎例祭の実施

秋の例祭（平成26年9月13日 参加者120余人）

前述のとおり、創立45周年式典を挙行了した。

春の例祭（平成27年4月25日 参加者110余人）

講演は、NPO伊豆学研究会理事長 橋本敬之氏をお招きした。イコモス推薦決定直前の世界遺産 明治日本の産業革命遺産「葦山反射炉」築造を指揮した代官 江川英龍についての講演を行った。この後、7月に世界遺産登録が成され、地元としては大変興味深く、意義ある講演であった。

なお、講演詳細は、館報の今号に掲載してあります。